



市民参加による在来生物保全のモデル事業として、7月10日に一迫小学校4年生の皆さんと一緒に希少植物のアサザとオオシクを移植しました。泥深い池を素足で歩く初めての体験に、皆さん大興奮でした。

Vol.98
平成30年8月号

— 自然体験講座に小学生らが参加 —

伊豆沼・内沼の自然を楽しみながら学ぶ自然体験講座（当財団主催）は全10回で、7月に2回開催しました。いずれも定員いっぱいになり、小学生とその家族が参加しました。

第2回 水辺の生き物採集と観察会（7/8）

伊豆沼の水辺で、生き物を採集し観察する体験講座を開きました。24人が参加し、タモ網などでエビや小魚、オオタニシを捕まえました。捕まえた生き物の種類や見分け方などを研究員が解説をしました。最後に、伊豆沼に設置した定置網を引き上げたところ、無数のテナガエビやスジエビ、モツゴなどの小魚に交じり、80cmほどのウナギが入っていました。小学生らは、直接ウナギに触れ、大いに盛り上がりました。

チョウを捕まえた



スジエビ
小さいスジエビ一本
体がどうめい
目が大きい

沼に何がいるのかな



ヌルヌルのウナギをやっと捕まえた



図鑑で調べて標本のラベル作り 羽をきれいに広げるのが難しい

エビと小魚がいるよ

第3回 昆虫採集と標本作り（7/22）

栗原市サンクチュアリセンターつきだて館（昆虫館）で、昆虫を採集し、標本作る体験講座を開きました。23人が参加し、内沼周辺の田んぼでチョウやトンボを捕まえました。宮城県昆虫地理研究会に所属する『わくわくどきどき実験室実行委員会』7人の指導により、捕まえた昆虫を標本にしました。参加した小学生からは「色々な種類のチョウを捕まえた」「標本の作り方を丁寧に教えてもらって良かった」との感想が寄せられました。

伊豆沼・内沼でジオパーク学習



7/13、水辺の生き物や植物に触れ合う「栗駒山麓ジオパーク学習」（同推進協議会主催）に参加する栗駒小学校の2年生33人が、内沼周辺と栗原市サンクチュアリセンターつきだて館（昆虫館）を訪れました。研究者らの解説で、トンボ、オオマリコケムシ、ジュンサイなどを観察しました。沼に仕掛けた定置網には大量のエビや魚が獲れ、歓声が上がりました。昆虫館では、クイズ形式の課題に取り組み、答えを探して各自が館内を巡りました。

また、7/10に一迫小学校の4年生、7/19に瀬峰中学校の1年生が伊豆沼周辺と宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター（鳥館）で魚類や水生植物について体験学習をしました。

マダガスカルから国立チンバザザ動植物園の関係者が来訪

仙台市八木山動物園に研修員として招聘された、マダガスカルのチンバザザ動植物園の関係者8人が7月4日に視察に訪れました。水生植物園などを案内し、湿地保全の説明をしたほか、各センターを巡りました。農法にも興味があるようで（マダガスカルの主食も米）、周囲の水田の様子も見ていました。

トンボ自動モニタリングカメラを視察する研修員 →



参加者募集

夏の伊豆沼と科学の体験会

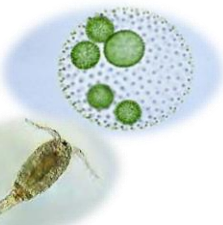
『わくわくどきどき実験室実行委員会』が4つの学びと体験会を開きます。

○ 伊豆沼の微生物を観察しよう

○ アリシゴクの様子を観察しよう

○ インクの色を分解

○ いろいろな昆虫のペーパークラフトをつくろう



会場：伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター（鳥館） 日時：8/5（日）10:00～15:00 対象：小学生
参加：無料 申し込み：当日、随時ご参加いただけます。

伊豆沼・内沼生き物図鑑 クロハラアジサシ *Chlidonias hybrid*

繁殖期に、おなかまわりの羽が黒くなるのでクロハラアジサシ。アジサシ類はカモメに近い水鳥です。カモメ類よりも小さく、くちばしが細くまっすぐで、尾がツバメのように分岐します。多くのアジサシ類は海洋性のため伊豆沼にはめったに飛来しないのですが、唯一クロハラアジサシは比較的よく見られます。ヨーロッパ南部から中国東北部にかけての地域で繁殖し、アフリカや南アジア、オーストラリアに南下して越冬します。日本では春秋の渡りの途中に飛来する旅鳥で、伊豆沼では6～7月に出現する傾向があります。ふわふわと飛びながら水面付近の魚をねらっている光景を目にします。

